

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立長坂小学校

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成29年4月18日(火)

3. 調査の対象

小学校第6学年、全児童

実施児童数(66人)

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容(A問題)と、それらを活用する力などに関する内容(B問題)とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査(以下「児童アンケート調査」という。)を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査(以下「学校アンケート調査」という。)を実施する。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(国語)

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率(本校 66/泉佐野市 71/大阪府 72/全国 74.8)

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層がやや少なく、下位層が多く分布している。
平均正答率(本校 42/泉佐野市 53/大阪府 54/全国 57.5)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

国語A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【書くこと】 ○手紙の構成を理解し、後付けを書くことは、全国と同様に課題がある。 2 二 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する (37.9/41.5) 【読むこと】 ○目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読むことに課題がある。 3 学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する (51.5/74.4)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題がある。 5 ア ことわざの使い方の例として適切なものを選択する(三度目の正直) (80.3/90.0) 5 イ ことわざの使い方の例として適切なものを選択する(もちはもち屋) (69.7/83.6) ○古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことに課題がある。 6 【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する (57.6/71.1) ○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことは、全国と同様に課題がある。 7 (1) 漢字を書く(参加たいしょう) (30.3/42.0)

国語B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【書くこと】 ○目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題がある。 1 三 折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く (19.7/48.4)	【読むこと】 ○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることに課題がある。 3 一 「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、[A]に当てはまる言葉として適切なものを選択する (53.0/75.9)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	45.5	60.5	○	15.0
国語の勉強は大切だと思いますか。	86.4	91.2		4.8
国語の授業の内容はよく分かりますか。	62.1	82.2	○	20.1
読書は好きですか。	65.1	74.3	◇	9.2
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思いますか。	87.8	87.9		0.1
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。	45.4	68.0	○	22.6
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。	47.0	63.4	○	16.4
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか。	50.0	74.8	○	24.8
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。 「すべての書く問題で最後まで努力した」割合	66.7	77.2	○	10.5
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A) (「余った」「ちょうどよい」の合計)	69.7	86.6	○	16.9
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B) (「余った」「ちょうどよい」の合計)	54.6	66.1	○	11.5

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

○「国語の勉強は大切だ」と回答している児童は 86.4%であるが、「国語の授業の内容はよく分かる」と回答している児童は 62.1%、「国語の勉強は好きだ」と回答している児童は 45.5%と低い。更なる授業改善が求められる。

○B問題における記述式の問題では、無答率は全国や府と大差はないものの、要点を押さえ、条件に合うような正答を導いていないことが課題である。

○これまでは難しいと感じるとすぐ課題から逃げる、あきらめる傾向が強かった。しかし、「解答時間は十分だった」と答えた児童が、A問題では 69.7%、B問題では 54.6%であり全国よりどちらも低い。最後まで努力しようとする児童の姿勢が伺える。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の分析(算数)

1. 全体の傾向

「A 区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率(本校 69/泉佐野市 76/大阪府 78/全国 78.6)

「B 区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べると下位層に偏りがある。

平均正答率(本校 31/泉佐野市 42/大阪府 45/全国 45.9)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

算数 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数と計算】 ○1 より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことに課題がある。 1(2) 買ったリボンの長さと、1m 当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ (50.0/69.9) 【量と測定】 ○任意単位による測定について理解することに課題がある。 4 重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ (57.6/70.7) ○高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解することに課題がある。 5 示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ (45.5/67.0)	【数量関係】 ○未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことに課題がある。 8 はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ (63.6/83.6) ○資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題がある。 9(2) 二次元表の合計欄に入る数を書く (42.4/62.8) * 15 問中 11 問が、無回答率が全国より下回っている

算数 B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数と計算】 ○示された条件を基に、適切な式を立てることに課題がある。 1(1) カードの差が 4 の場合の、2 けたのひき算の式と答えを書く (56.1/76.0) ○示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することに課題がある。 1(2) 示された考えを基に、$54 - 45$ の場合で残る部分を図に表す (65.2/81.8)	○問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述することは、全国と同様に課題がある。 1(3) 2 けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く (24.2/38.6) ○料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することは、全国と同様に課題がある。 2(1) 小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く (24.2/40.4)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	54.5	65.9	○	11.4
算数の勉強は大切だと思いますか。	89.4	92.0		2.6
算数の授業の内容はよく分かりますか。	77.3	80.6		3.3
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。	65.1	75.7	○	10.6
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	74.2	81.1	◇	6.9
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	62.2	69.1	◇	6.9
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思いますか。	89.4	89.1		0.3
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	75.7	81.4	◇	5.7
算数の授業で公式やきまりを習うと、そのわけを理解するようにしていますか。	65.1	82.6	○	17.5
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように、ノートに書いていますか。	71.2	86.0	○	14.8
今回の問題で言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか「すべての書く問題で最後まで努力した」割合	62.1	69.9	◇	7.8
A 問題の解答時間は十分でしたか。 (「余った」「ちょうどよい」の合計)	78.8	87.1	◇	8.3
B 問題の解答時間は十分でしたか。 (「余った」「ちょうどよい」の合計)	57.6	52.5	◇	5.1

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

○「算数の勉強は大切だ」と「将来社会に出た時に役立つ」の項目については、約9割の児童が肯定的に考えている。しかし、「算数の勉強は好き」という項目では、肯定的回答は約5割に留まっており、学習への意欲面で課題が伺える。

○A問題では、無回答率は15問中11問が全国よりも下回っており、何らかの問題に対する答えを書いていることがわかる。

○A問題の量と測定の領域の問題について、全国との差異が17.3%(問4と問5の平均)と大きくはなれており、数直線の見方や図や表、測定についての問題に対して課題がみられる。

○最後の問題にかけて、集中力や意欲が低下していると考えられる。応用問題に触れる機会をつくり、問題を見てイメージできるように授業改善を進めていくことが課題である。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(児童質問紙より)

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。(例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない)また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
家庭・地域生活	○基本的な生活習慣に課題がある。 (就寝時間・起床時間に課題) ○TVやケータイ/スマホの使用時間が長い。約3割が4時間を超えている。 ○地域や社会に対する関心が低い。 祭りなどに参加しているが本調査には反映されていない。 ○自尊感情が低い。	○朝食を毎日食べている。 (86.3/95.4) ○毎日同じくらいの時間に寝ている。 (74.3/79.8) ○毎日同じ時刻に起きている。 (87.9/91.2) ○1日にどれくらいTVやビデオ・DVDを見るか。 (4時間以上 27.3/16.6) ○1日にどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をするか。 (4時間以上 27.3/9.3) ○住んでいる地域の行事に参加する。 (25.7/62.6) ○地域や社会の問題や出来事に関心がある。 (34.8/63.9) ○自分には、よいところがあると思う。 (51.5/77.9) ○家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。 (51.5/78.1)
家庭学習	○宿題はほとんどの児童がしている。 ○家庭学習(予習復習)のとりくみが弱い。	○自分で計画をたてて勉強する。 (30.3/64.5) ○家で、学校の宿題をしている。 (95.5/96.9) ○学校の授業の予習をする。 (28.8/41.0) ○学校の授業の復習をする。 (22.7/53.8)
学校生活・学習	○学習規律を守り、授業を大切にしている。 ○「総合的な学習」における児童の自主的なとりくみが弱い。 ○授業における目標設定や振り返りの活動はできている。 ○自分の考えを文章にまとめることに苦手意識がある。	○国語の授業の内容はよく分かる。 (62.1/82.2) ○算数の授業の内容はよく分かる。 (77.3/80.6) ○総合的な学習で、自分で課題を立て情報収集、整理、発表するなどの活動に取り組んでいる (34.9/69.8) ○5年生までに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。 (75.7/88.2) ○5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。 (62.1/76.2) ○5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う。 (95.5/88.7) ○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい。 (74.2/59.5) ○学校の授業等で、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい (69.7/53.7)

本校のとりくみ

◎これまでのとりくみ

1. 基礎基本の学力の定着

◇長坂タイム(始業前15分)のとりくみ

国語(漢字+α)・算数(計算+α)・外国語(DREAM)

◇学習規律の確立

「長坂小！みんなの学習ルール」「聞きとり名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」

「聴く、話す」など適切な学習態度・行動を促す。

◇復習テストの実施(4月、2月)

前学年までの既習事項を確認することで児童の実態把握をし、つまずきやすい単元を発見して、授業改善を行う。

◇ノート指導

見やすいノートの規準を示し、ていねいにノートを書く習慣をつける。

◇わくわく学習会

週1回放課後学習会(希望参加)を設定。集中して学習する姿勢を身につけ、算数の基礎基本問題を解き、自分の課題を克服していく。また、応用問題に触れる機会をつくる。

2. TT(チームティーチング)、少人数指導・少人数習熟度別指導

◇学習内容によって、学びの形態を変え、よりわかりやすい授業、個別課題に対応する授業を行う。

3. 宿題・家庭学習の徹底

◇家庭学習の習慣化を促す「家庭学習のてびき」

家庭での基本的な学習態度を示し、毎学期「宿題ばっちりウイーク」を設定し、家庭でも評価してもらう。

4. 指導力の向上

◇「聴く、話す」の力を高めるために(国語科の授業研究を通して)

基礎基本の学力をもとに、実際に課題を解決していくてだて(活用力)を高めていくため、「人の話を主体的に聴く」「自分の意見を人にわかるように話す」といった力をつける言語活動を研究・実践する。

◇ユニバーサルデザインを意識した授業づくりのスキルを高める

上記の研究と並行して教室環境の整備、授業のめあての明示とふりかえりの徹底、実物投影機等のICTの活用、板書の工夫、聞きやすい説明の方法、意欲を高める評価方法など、実践交流を行い、研究通信により情宣する。

◇学力向上アドバイザーの配置

子どもの学習相談や課題のフォロー、職員の授業力アップに資する人材の活用により、学力課題に対する組織的とりくみ支援と個別支援をすすめる。

◇算数サポーターの配置

授業中の個々のつまずきに適宜対応できる個別支援をすすめる人材の活用。

5. 学級集団づくりと生徒指導

◇子どもたちの人間関係を把握し、安心して自分が出せ、ともに学習していく学級経営の研究と実践を行うとともに、一つひとつの生徒指導上の事案についてケース会議等、学校総力をあげて心の安定を図る。

◎これからのとりくみ

「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」(96.9%)「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」(86.4%)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(83.3%)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいますか」(87.9%)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(97.0%)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(94.0%)

上記は、児童質問紙の結果の抜粋です。これらの項目の多くは国を上回る結果になっています。これまでのとりくみが少しずつ成果として児童の心に積み上げられているのではないかと考えます。更に、このとりくみを継続し、児童がより安心して学校生活を過ごせるためにも、心の安定を図り、「わかる授業」づくり・授業のスタンダードを再構築し、それぞれのとりくみをより有機的に結びつけ、実践するように努めます。

I 個人や集団の心の安定を図るために

1. 相手を尊重する気持ちで行動します
2. トラブルは子どもたちが主体的に解決していきます
3. 私たちは子どもに尊敬の思いを込めます
4. 「大切に」を学校の文化として根付かせます

II 主体的な学習をすすめるために

1. 子どもと先生、子ども同士、いっしょに授業をつくります
2. 「聴く」力を身につけ、主体的な話し合いができるようにします
3. 話し合うことで力は増し、自分をふりかえり高めます
4. 表現と交流のために、ホワイトボードを活用します
5. チームワークを大切にします

【国語力(読解力)向上のための工夫】

- ①長坂タイムのプリントの活用⇒長文読解、クロスワード的なクイズ形式のもので語彙を増やす、時系列を考えさせる問題などに意識的にとりくませる。
- ②「聴く・話す」力の向上は継続しつつ、今年度からの研究主題である「思考力」をのばす授業づくり⇒一人でじっくり考える時間を確保する授業の組み立てや、ペアやグループ学習の効果的な活用
- ③関心・意欲を高めるような授業づくり(授業改善の工夫)
- ④語彙量を低学年のうちから増やしていけるような授業づくり(読み聞かせ等含む)

【算数力(計算力)向上のための工夫】

- ①学習した内容を積み上げていく教科であるため、既習事項を単元の学習の導入時にもう一度思い出せるような復習の時間が必要である。⇒学年をまたいでの学習内容の復習をする。
- ②文章問題で、＋、－、×、÷の問題が混じっていて、よく問題を読み、理解しないと解けないようなプリントにとりくませてみる。
- ③計算はできるようになってきているが、図を使ったりひねった問題があったりするとできなくなる。⇒文章問題から図をかく、立式する練習をする。